山梨県における障害児医療・療育・福祉
― 重症心身障害児（者）施設におけるアンケート調査結果について ―

飯島純夫，藤嶋美奈子，竹下達也
山縣然太朗，浅香昭雄

要約：障害児医療・療育・福祉の連携について調べることを目的として、山梨県の一重症心身障害児施設に入所している児（者）の保護者にアンケート調査を行った。この施設では医療・療育がともに行われているため、両者の連携が密であり、保護者も概ね満足していた。一方では「保護者の死後の児（者）の介護」に対する不安が強く、この点に関する施設側、福祉行政側への要望が多く認められた。

見出し語：障害児医療、療育、福祉、重症心身障害児（者）施設、アンケート調査

はじめに：

山梨県における重症心身障害児（者）施設における医療・療育・福祉がどのように行われ、どのようなところに問題点があるかを明らかにする目的である施設に入所している児（者）の保護者を対象としてアンケート調査を行った。

方法：

山梨県甲府市にある重症心身障害児（者）施設の入所者１１７名の保護者を対象として、障害児（者）の医療・療育・福祉に関するアンケート調査を郵送法によって行った。入所児（者）の出身県は７６．５％が山梨県、１５．１％が東京都、８．４％が神奈川県であった。回収率は４７．９％であった。

結果：

回答のあったケースの入所児（者）は男が約６割、女が約４割で年齢は６歳から５０歳まで分布していた。２０歳代が３６．２％と最も多くなっており、次いで３０歳代が２７．７％、４０歳代以上が１９．１％となっていた。父母の年齢は父親は３７歳から８１歳まで分布しており、５０歳代と６０歳代がともに３１％で最も多くなっていた。母親の年齢の分布は２８歳から９４歳までであり、５０歳代が３４％と最も高くなっていた。

入所させた理由（複数回答）としては「児童相談所にすすめられて」(45.1%)、「治療のため」(43.1%)、「介護の人手がない」(37.3%)、「訓練のため」(29.4%)、「両親が高齢化した

山梨医科大学保健学Ⅱ
(Yamanashi Medical College)

ため」(27.5%)、「子どもの発達を望んだため」(25.5%)などの回答の割合が高くなっていた。入所時に相談した所は、児童相談所（31.4%)、福祉事務所(27.5%)、市町村役場(7.8%)が多くなっていた。医療（治療・看護）については「充分受けられている」、「まあまあ受けられている」をあわせると８８．２％となり、大部分の者が満足していた。一方、訓練については満足している割合は約６割で、「あまり受けられていない」、「全く受けられていない」をあわせると１８％となっていた。生活の場としては９割が満足していた。施設の行事（運動会、お誕生会、社会見学など）へは「時々」を含めれば大部分の人が参加していた。家庭療育の必要性については「とてもある」(34.9%)、「少しある」(27.9%)をあわせると６２．８％であったが、否定的な意見も１４％あった。家庭療育で一番大変なことは「家庭での介護」(57.6%)という回答が最も多かった。家庭療育時にヘルパーなどの福祉サービスに頼む者はほとんどいなかった。親（身内）として一番してやりたいことは「特にない」(42.6%)が最も多く、ついで「スキンシップを増やす」(31.9%)となっていた。将来について不安なことは「主な養育者が死んだ後の介護」(74.5%)が最も多く、次いで「兄弟姉妹との関係」(29.4%)となっていた。兄弟姉妹との関係は「まあまあうまくいっている」(39.5%)、「非常にうまくいっている」(32.6%)、「どちらともいえない」(27.9%)で、「うまくいっていない」という回答は無かった。

病院に対する要望（自由回答）は「治療、看護などが総合的で安心できる」という回答が多かった半面「もう少しきめ細かな看護、訓練をして欲しい」という要望が散見された。行政に対しては「情報を通知してほしい」、「近くに施設を造って欲しい」、「負担金を軽くして欲しい」、「親が死亡後も介護できるようにしてほしい」、「有効な教育が受けられる制度を作ってほしい」等の意見がだされた。

考察：

この施設では医療・療育が同じ場所で行われているため、医療と療育の連携の度合いが強く、保護者も概ね満足していることが回答からうかがわれた。一方では特に親が死んだ後の介護と入院児（者）の老齢化に伴うことについての不安を訴えるものの割合が高くなっており、このことは同種の調査結果と同じ傾向を示していた。親が死んだ後は兄弟姉妹との関係が問題となると考えられ、「将来の不安」のうちの第２位に表れているが、実際には入院児（者）との関係は比較的うまくいっていることがアンケートからうかがわれた。

今後は他の施設での同種の調査、在宅障害児での調査も行い、また同時に施設職員、行政へのアプローチも行うことによって有効な障害児医療・療育・福祉システムの構築に資したい。

検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります

要約:障害児医療・療育・福祉の連携について調べることを目的として、山梨県の一重症心身障害児施設に入所している児(者)の保護者にアンケート調査を行った。この施設では医療・療育がともに行われているため、両者の連携が密であり、保護者も概ね満足していた。一方では「保護者の死後の児(者)の介護」に対する不安が強く、この点に関する施設側、福祉行政側への要望が多く認められた。